



Title	演習
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1953
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/77318">http://hdl.handle.net/2115/77318</a>
Type	manuscript
File Information	K004_0128.pdf



[Instructions for use](#)

SUPERIOR NOTEBOOK  
MADE FROM FINEST PAPER

演習

---

昭和二十八年度

---

---



才一回五頁之白

出身地 生長地

研究の  
同記

西地北海道の別、出村却希の別。

等しい同記を抄す。



才二回 五月十日

甚平也己の報告、北海道文化園

設置調査の話

分科会時に會議室を以て卒業

先も<sup>多量</sup>予研、甚平草也(下)の<sup>経</sup>節

原答甚平が成入りのある。余も原

紙<sup>紙</sup>辨をわつし流す。決定は總長

の自備事を借りた。甚平名目

伴。

才三回 五月二十日

新谷石炭表の予定をいしし小俄の  
変更して佐治石の炭表。橋島の下  
二地の方甘洞の報告

五月二十七日は欠、前日血痰を吐くお

牙田回 九月三日

須田兄の発表 報告の研究

批評のて

「整理する」の句に目的の異なるものあり

二比較 — 同一のものならし時代の比較

内地と北海道。報告と寺院

他報告よ

第五回 六月十日

甚井君発表

批評、  
里民の住み方、  
田舎の

郡界の位

協同組合一般

郊外村落—豊後村

協同組合の文化活動

従事者の性格



第六回 六月十七日

箕森王帯広調査報告

帯広市

人口 六六〇三二  
世帯人口 四八九人

卸商、サ、ヒ、ス、運輸が他の都市に比して  
多い。

地租は、田圃が落い。

町の中心は、一四七回所。  
組織は、化、小、大、の、九、七、五、の、内、二、九、は

成、立、年、代、の、な、よ、か、居、い、。

全、部、が、一、部、か、

大、部、は、地、主、か、。

名、姓、は、百、帯、町、内、各、一、一、層、

氏、子、姓、は、市、内、に、他、区、に、居、る、の、

多、い。一、年、香、割、の、区、長、に、居、る、

令、引、せ、は、係、の、代、長、に、居、る、

婦、人、学、校、は、

調査員 (巻) 二十七年夏 二十七年秋



人口初婚婚烟卷「保健」

共婚烟卷「保健」

1948.2 21.8% 41.8%

和七回 六月二十四日

珍重をせし大よむを日よりとある精神  
御先様は是方の横山に居る未清の  
つきや先礼同士の清く敬くを  
是の為今週及いお週也  
休請。

和八回 七月一日 休請

第九回 七月八日

新谷君発表、富川君新仕録介

三年生、おまの休暇中の研究指図す。

九月より三年生、おまの発表。休暇中

のことも今日お打ちす。

カ十四回

十月十四日

休暇中先生の調査したところの発表。各学  
年の調査について余の批判。



第十一回 (十月二十一日)

( 事例調査法について )

case method, *enquête*,  
mnemograph, compiling method,  
personal document  
autobiograph.

一、<sup>科学的</sup> 研究対象及方法

一、モノグラフ法

一、余の調査旅行記、調査の手段  
結合と分離)

一、社会科学的研究対象と方法の  
考察(おへん)。

乙、北守との関係

卯十三日(十月二十八日)

佐久川の報告

網走市内寺院及報告

網走神社

明治四十一年、分電を寄け、美の、

氏子市民

氏子の年齢は七十五

厄拂式二百人位、

市の人口は四万二千

三月の大嘗祈願祭の七〇〇人

漢字、甲、北守、一向から、

尾形神社、

寺にも報告に由て了す。

責任は後より、寺に神社は同一人

か、了知を。

寺院の報告を、

2、毛田村の現在の村の  
ce  
か

計書  
村の比年

3、血縁の程

第十一回(十日白)

清水思比田村の研究

一、琴平 8.1

一、相田 20-21 31

一、端成村 32-4  
氏子集同の補本(子存と世地子) 市菟尾一日休む

洪水が為果村を作った。

尾形園、12-21の由壁

「近社」

相

馬乳歌、近社

新琴平



才十四回(十一月十日)

佐久間君

維新の教育の丁使と組織

明治二十年の知人志士

大曲が始め、明治第三五年志士伝

網走教育下藩の丁使

5人 4 4 2 1 5 10 4 6

明治 2 3 4 5 6 7 8 9 10

1 4 2 2 4 5 2 4 5 6

明治 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

9 14 10 12 15 12 14

21 22 23 24 25 26 27 28

白土中心オリスト館 18 18 五子ハ流ハ

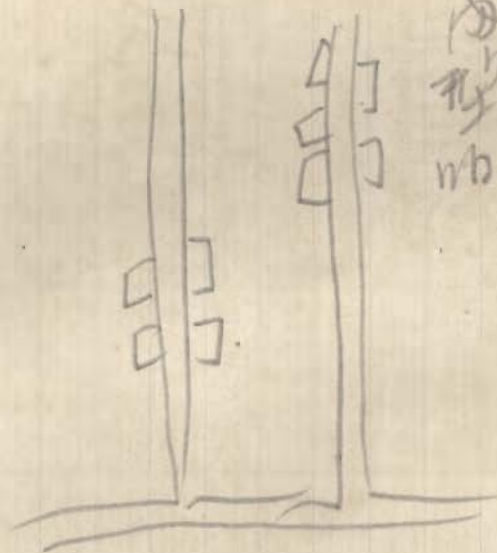


年段	30天 平均	平均	备注
15-20	23.9	16.1	新
21-25	21.9	25.1	新
-35	10.5	12.2	新
-45	6.1	8.3	新
-50	6.2	6.2	新
-55	6.1	14.7	新
	6.8		
5-6	12.4	6.2	
	6.2	8.3	
		2.4	

才十五回 (十一月二十五日)

清水名の七日経の研究了り。

相内形  
nb  
14形



才十六回 (十月二日)

谷口君、小田氏の資料による。

廿四より部族の人数

九十七世帯 165人

8  
鏝摺

150  
女坊

一係

50

女坊

34  
4

女坊

戸数係短期子

一戸一七人

一世代 67

68.6%

男女  
女 4  
男 63



子園	
住居立廻のたぬ	2.5
死守生活おこつて	7.9
失業	13.4
生活困窮	13.4
家庭の不和	8.5
生活のあ	8.5
不良浮浪者	6.8
老令	4.1
その他	16.9

二、五%は住居の立のきを合せし  
 のり

母と子	26
はと子	13
夫婦と子	9
夫婦	67
一人世帯	7



札幌 38  
 小樽 7  
 旭川 7

市部  
 町部

北海道	市部	59.0%	22	去 自 地
	町部	41.	15	
内地	市部	34.	18	
	町部	66.	35	
全体	市	44.4	40	
	町	55.6	50	

无稿 10.6%  
层拾 58.4%  
白底 21.8%  
行商  
其人  
好居  
流人  
执名

脚  
子

才十七回 (十二月九日)

第五回 発表

内地球の余暇に於ては、  
多のレンズで捉えられた都市の  
風景を描き、  
その田舎の風景を描き、  
その田舎の風景を描き、

岸和田市

島田市の地誌(集)

組と呼ばれるものがある。  
それらの大抵は、  
その田舎の風景を描き、

岸和田 105.3<sup>28</sup>人

地誌集(集)

下、  
有施、

四年

新谷勝也  
菅野秋也  
須田  
荒井  
河野  
布施

三年

清水堯夫  
市橋昭司  
西園寺  
納谷浩一  
工藤隆一  
須崎一  
大谷勝子  
澤田滋子